平成30年10月4日
提供：沖縄タイムス社
※無断での転用・複写等を禁じます

植物工場へ出資

グリーンプラントカミヤ

公庫が3000万円

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は3日、完全人工光による植物工場を運営するグリーンプラントカミヤ（南城市、神谷善高代表）に3千万円を出資したと発表した。同社は7月末に植物工場を完成させてレタス類の栽培を始めており、8日に初出荷する。1日7200株生産でき、2年以内に売り上げ1億7千万円を目指す。

出資は3月29日付で、同公庫の新事業創出促進出資制度を活用した。品質、価格、供給量が安定した工場で、県内外に野菜を供給できることなどが評価された。

農業用施設の設計施工を手掛ける親会社の神谷産業（那覇市、神谷善高代表）が、別の工場で栽培したレタス類を販売し、事業性などを約1年間検証した。品質については、琉球大学農学部と協力し、露地野菜よりミネラルが豊富で高栄養価だと証明された。水や肥料を循環させる技術を使って栽培。価格は競合同業者より安価で販売する。

神谷代表は「無農薬で日持ちもいいので、県内に安定供給した後は、海外輸出も視野に取り組みたい」と意気込んだ。公庫新事業育成出資室の新垣尚之室長は「観光客の増加やホテル建設が進む中、無農薬野菜の需要は高い。安定供給を期待する」と話した。

植物工場への出資で会見した沖縄振興開発金融公庫の新垣室長（左から2人目）とグリーンプラントカミヤの神谷代表（同3人目）ら＝3日、南城市の同社

平成30年10月4日
提供：琉球新報社
※無断での転用・複写等を禁じます

完全人工光で植物栽培

グリーンカミヤ　公庫出資、初出荷へ

グリーンプラントカミヤの神谷善高社長（左）と出資した沖縄振興開発金融公庫の新垣尚之室長＝3日、南城市玉城親慶原の植物工場

グリーンプラントカミヤ（南城市、神谷善高社長）は、沖縄振興開発金融公庫から3千万円の出資を受けて、7月に南城市玉城親慶原で植物工場を完成させた。市内で別の野菜工場を運営して得た独自のノウハウで生産費を25%抑えた完全人工光の植物工場で、9日にもレタスなどを初めて出荷する。

新工場は毎日7200株のレタスなどを安定的に生産でき、県内の小売店やホテルなどへ供給を強化する。今後は工場のフランチャイズ化も見込んでいる。

栽培品目はフリルレタス、玉レタス、ベビーリーフなど7種類。神谷産業グループの「美ら菜」ブランドで出荷する。神谷産業は経営の多角化を目的にして、南城市内の旧保育所を賃借した植物工場で実証実験を進めていた。

神谷社長は「完全無農薬で、露地野菜に比べてもミネラル豊富で栄養価も高い」と商品の魅力を強調する。夏場は県内ホテルで葉野菜が提供できなくなる状況もあり、「観光業にも貢献できる。葉野菜の輸出や、自社で工場建設から手掛けるビジネスモデルもつくりたい」と語った。